

第5学年2組

外国語活動学習指導案

授業日 平成27年6月30日(火) 3校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 茂木 智弘

会場 5年2組教室

1 単元名 Hi, friends1 Lesson4 「I like apples.」 Lesson5 「What do you like?」

「たいやき(5年2組) Townをつくろう! 『第5学年: お店』

～服屋編 「What(noun)? What(noun) do you like?」～

2 本単元の価値

本単元は、新学習指導要領改訂に向けた英語教育の在り方に関する有識者会議で検討されている小学校外国語教育(第5・6学年)の目標及び内容を現行教材「Hi, friends」の言語材料を用いて、開発している単元である。新学習指導要領の外国語教育(第5・6学年)では、次のようなポイントが目標及び内容で挙げられている。(読む・書くの領域は除く)

1 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

<ポイント> ・身近で簡単なこと ・コミュニケーション能力の基礎

(1) 身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。

(2) 身近で簡単なことについて、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

<ポイント> ・身近で簡単なこと ・初歩的な英語

2 内容

英語を理解し、英語で表現する能力を養うため、次の言語活動を2学年間を通して行わせる。

○「聞く」「話す」について

・基本的な英語の音声に慣れ、身の回りの語いや場面の中での表現を聞き取り、状況から判断して適切に応じること。自分の考えや気持ちなどを英語やジェスチャーを使って、聞き手がわかるように話すこと。

○言語材料の取扱い

・外国語活動で扱った、表現等を繰り返し扱う。その際、外国語活動と異なる場面で活用するなど、スパイラルに何度も扱うことに留意する。

<ポイント> ・場面や状況に依拠して聞くこと、話すこと

以上のことから、第5学年では教室内に My Town をつくることを目的とし、そのために必要な英語表現や語彙を各単元で学んでいくことを提案する。My Town とは、身近にある商店を中心とした仮想の街である。子どもは、各単元で様々な店の店員になったり、お客になったりして、繰り返し英語を使う。そうすることで、繰り返し既有的英語表現や語彙を使いつつも、店の種類によって新たな英語表現や語彙を学んでいくのである。

Hi, friends1 の中心的な英語表現と My Town に必要な店について次のように対応させ、年間の指導カリキュラムを考える。

Lesson 1 Hello! …あいさつ1

Lesson 2 I'm Happy. …あいさつ2

Lesson 1～2は、日常会話に必ず必要な英語表現であり、どの店の店員やお客になっても必ず使う基本表現として学ぶ。

Lesson 4 I like apples. …好きなものを伝える

Lesson 5 What do you like? …好きなものを聞く

Lesson 4～5では、服屋を設定し、基本的な文構造 S+V+O(C)や疑問文(What)を体験的に学び、What(noun)?で名詞(noun)の置き換えについて学ぶ。

Lesson 6 What do you want? …欲しいものを聞く

ファストフード店を設定し、what do you(verb)?で動詞(verb)の置き換えについて学ぶ。

Lesson 8 I study Japanese. …勉強するものを伝える

文房具店を設定し、I study Japanese and English.で接続詞(andやorなど)を学ぶ。

Lesson 3 How many? …数を数える

Lesson 7 What's this? …ある(存在する)ものを聞く

Lesson 3 と Lesson 7 では、店の店内でよく使う英語について見直し、新たな疑問詞 (How など) を学んだり、一般動詞と be 動詞の違いについて気付く。

Lesson 9 What would you like?・・・注文を聞く
高級レストラン店を設定し、敬語の表現について学ぶ。

Lesson10 オリジナル単元「たいやき Town (My Town) でお買い物」
今まで学んだ英語表現を基に、店を出店したり、お客になったりして My Town でお買物をする。

※ なお、第6学年では、My Town の内容を広げ、交番 (Turn right)、空港 (Let's go to Italy.)、学校 (What do you want to be?) などを想定している。

本単元では、第1の店として「服屋」を想定する。相手 (お客) の好みを聞いて、服 (T シャツ) を選ぶ活動は、Hi, friends! Lesson 5 でも提示されている内容である。本研究では、それをより現実場面に近付けるために、「服屋」という場面を設定し、「店員とお客のやり取り」という状況の中で使わせる。そうすることで、子どもは中心となる英語表現 (What (noun)? What (noun) do you like?) を場面や状況に依拠して聞いたり、話したりするようになる。

子どもは、前単元「マイプロファイルノートをつくろう!」において、基本的なあいさつや自己紹介に必要な英語表現を学んでいる。また、前単元において相手の好きなものを知る英語表現として、What (noun) do you like? の表現を4年生の時に活動した英語版フルーツバスケットの学習から引き出していた。しかし、実際の使われ方を見ると、場面、状況に応じて、好きなものを聞いていない。単純に好きなものをひたすら自分の気分で聞いているに過ぎなかった。

そこで、本単元では店の店員となり、相手の好きなものや服のサイズや種類を聞くことで、お勧めの服を選んだり、サイズや服の種類を聞いたりしながら、場面や状況に依拠して What (noun)? や What (noun) do you like? を使うことを目指す。

3 本単元で目指す姿と「中核的な学習内容」「学びをつなぐ力」

(1) 目指す姿

服屋の店員になり、What (noun) do you like? や What (noun)? を使って、お客の要望に応えることができる子ども

- What (noun) do you like? で目指す子ども (1 サイクル目の中核的な学習内容)

「What (do you like?) の後に、色や柄についての英語を使うと、相手が望んでいる T シャツを売ることができる」

※ 本実践では、子どもの実態として、形式的ではあるが既に what (noun) do you like? の英語表現を知っているため1サイクル目の【働き掛け1・2】は、検証対象外とする。

- What (noun)? で目指す子ども (2 サイクル目の中核的な学習内容)

「what? の後に、サイズや服の種類についての英語を使うと、相手の望んでいる服を売ることができる」

※どちらも、お客が買う前に想定した服と実際に買った服が合致していることが条件

(2) 「中核的な学習内容」

場面や状況に応じて中心となる英語表現「What (noun)?」が使えること

(3) 「学びをつなぐ力」

関係付けるすべを用いて、見いだした英語を使ってコミュニケーションをしてみることで、その英語で課題解決できるかどうかを判断する力

4 指導計画及び指導の構想 ※語彙＝言葉 表現＝文

(1) 単元計画

全6時間 (18Q)

(2) 指導計画

本単元は、中心となる英語表現「What (noun)?」を使って、服屋の店員となり、お客の望んでいる服を売る活動である。

まずはじめに年間を通して外国語活動でどのような内容をするのか (My Town 構想) を伝え、子どもの興味・関心を高める。その後、服の商品 (T シャツ) を示しながら、本単元では服屋の店員になり、お客が望んでいる服を英語で売るといふ本単元の課題を伝え、必要な英語 (語彙) を問う。すると、子どもは既存の英語の語彙では対応できないことを知り、新しい英語 (語彙) を求めるようになる。そこで教師は、新しい英語 (語彙) を教え、慣れさせる。このように、必要と思われる英語 (語彙) を知った状態 (CO) になったところで、次の働き掛けをする。

働き掛け1

店員とお客のやり取りを日本語で想起させ、実際にやり取りができるか考えさせる。

必要な英語（表現）が不足していることに気付かせる働き掛けである。

子どもは、既存の英語（語彙・表現）と新しく慣れ親しんだ英語（語彙）で、服屋の店員となり、お客とやり取り（2回目＝1回目のやり取り）するという課題に取り組もう（2回目＝取り組んで）いる。このような子どもに具体的な店員とお客のやり取りを想起させ、実際にやり取りができるのか考えさせる。すると子どもは、既存の英語（語彙・表現）や新しく慣れ親しんだ（語彙）だけでは、課題が解決されないことに気付く。このように、新たな英語（表現）を求めている姿を問いをもった姿（C1）とし、次の働き掛けをする。

働き掛け2

中心となる英語表現の日本語訳に着目させ、既存の英語（表現）及びその日本語訳を提示する。

場面や状況に応じた英語表現を見いださせる働き掛けである。

子どもは、具体的なやり取りを想定することで、様々な英語が不足していることに気付く。そこで、教師は、中心となる英語表現以外の英語（語彙・表現）は教え、慣れ親しませる。そして、**既存の英語表現の文構造とその日本語訳（「対象」）**を提示する。すると子どもは、**比較するすべ**を用いて、日本語同士（既存の日本語訳と中心となる英語表現の日本語訳）を比べ、共通点や相違点に気付くようになる。そして、その共通点と相違点と既存の英語表現とを**関係付けるすべ**を用いて、中心となる英語表現（What の後にカテゴリーを表す言葉を加えるとより詳しい「何」が聞けるようになる）を見いだす。その後、見いだした英語表現が適切であるかALTに問い、実際に使えることのできる英語表現であることを知り、慣れ親しんだ姿（C2）になったら次の働き掛けをする。

働き掛け3

各班で服屋を開店させ、接客をさせる。

見いだした中心となる英語表現を場面や状況に応じて使うことができるのか実践させる働き掛けである。

子どもは、中心となる英語表現を知っている。そこで教師は、課題（お客の要望に応えること）を基に、実際の場面（服屋の店員）や状況（店員とお客のやり取り）を意図的に組織することで、コミュニケーションを図らせる。すると、子どもは**関係付けるすべ**を用いて、見いだした中心的な英語表現（What の後にカテゴリーを表す言葉を加えるとより詳しい「何」が聞けるようになる）と実際の場面や状況をつなぎ、お客の要望に応えることができるようになる。この姿が場面や状況に応じて中心的な英語表現（what(noun)?）を使えることをつくりだした姿（C3）である。

※本単元では、働き掛け1～3を2回繰り返す。

「学びをつなぐ力」の自覚を促す働き掛け

振り返りシートでお客の要望に応えられるようになった要因を問う。

子どもに「学びをつなぐ力」を自覚させるための働き掛けである。

子どもは、服屋の店員として英語でお客の要望に応えられたことを実感している。このような子どもに、「どのような英語を使ったら、お客の要望に応えられるようになったか」と問う。そうすることで、子どもは中心となる英語表現（What(noun)?）を使って、お客の要望に応えられたことを自覚し、**目指す子ども（Cn）**の姿となる。

6 本時の構想（本時 3／6時間）

(1) ねらい

比較するすべや関係付けるすべを用いて、What(noun)?の表現を応用して使い、よりお客の要望に答える英語表現を見いだすことができる。

「What の後に、size や clothes などに加えて話したら、よりお客の要望に応えることが可能なると思う。」

※実際に店員として勧めた服が、お客が事前に望んでいた服と合致していることが条件

(2) 主張（展開）3Q（45分）

※1 サイクル目の働き掛け1・2は、子どもが既成として、What(noun)do you like?を形式的に知っているため、検証対象外である。そのため、本時は【働き掛け3】のコミュニケーション場面から、2 サイクル目の問いを見いだす場面を公開する。

このような子どもに（C0）

- Tシャツを販売するために必要な英語（語彙・表現）を知り、慣れ親しんでいる。
語彙：color (Blue, Red, Pink など), shape(circle,triangle,square など), animal (rabbit,dog,cat など)
fruit(melon,apple,orange など), sport (baseball,soccer,tennis など)
表現：What(noun) do you like? noun = color,shape,animal,fruit,sport など

このように働き掛けると【働き掛け3（1回目）】

各班で服屋を開店させ、接客をさせる。

指示1「Hello, everyone! How are you? …」

※初めにあいさつの会話を交わす。

○説明1「前回までに、服屋の店員になってお客の要望に応えるためにはどんな英語が必要かを学んできましたね。今日は、実際にその英語を使って、お客の要望に応えられるかをやってみましょう。ルールは、前時に示した通りです。できそうですか」

※ルールは、事前に説明をしておく。

※お客になる側は、事前に自分の買いたいTシャツを決めておく（記述）。

※はじめの班は、お店の準備は、開始前に既に済ませておく。

※準備の自信がなさそうであれば、準備の時間をとる。

○指示2「それでは、1回目の買い物タイムを始めてください」

※2回目以降は、子どもの実態を見ながら時間を決めて、交代させる。

※実際の買い物タイムでは、HRT・ALT共に、欲しいTシャツは、手に入れるも、他の要求（サイズや他の服はないのかなど）をする。

このようになり（C3[1回目]）

○ ルールや店の準備などをする。

・OK!先生大丈夫だよ。

・ちょっとまって、もう一度だけ、確認をさせて。

・英語は、大丈夫だと思うけど、お客がいっぱい来たらどうする？

・役割分担確認！

○ **関係付けるすべ**を用いて、見いだした中心的な英語表現(Whatの後にカテゴリーを表す言葉を加えるとより詳しい「何」が聞けるようになる)と実際の場面や状況をつなぎ、お客の要望に応えようとする。

S = 店員 C = お客

S: Hello! May I help you?

C: Hello! T-Shirt, please.

S: OK.

S: what color do you like?

C: Ah, I like pink.

S: OK. Here you are.

C: Oh, no.

S: Oh sorry. What shape do you like?

C: I like circle.

S: Ah, I see. Here you are.

C: Oh, no, no. I don't like dog.

S: Wow Sorry. What animal do you like?

C: I like a cat.

S: OK. Here you are.

C: Thank you!

S: You are welcome.

C: Ah... Do you have pants?

S: Pants?... No.

C: Ok. My size is 'M'.

S: ???

C: Ah, OK. No problem.

C: See you.

S: See you again!

※つなぐ力：~~~~~のように**関係付けるすべ**を用いて、見いだした英語(What(noun)do you like?)を使って コミュニケーションをしてみることで、その英語で課題解決できるかどうかを判断している。

※ ~~~~~のような場面や状況に応じて、What(noun)do you like?を使い、お客の要望に応えることができた時、次の働き掛けをする。

このように働き掛けると【働き掛け1（2回目）】

店員とお客のやり取りを日本語で想起させ、実際にやり取りができるか考えさせる。

○発問1「みなさん、1度は、店員の役をしましたね。T-シャツは、上手く売れましたか」

※補助1 目的は達成したが、よりお客の要望に応えようとする発言が見られない時、次の補助発問をする。

「お客さんの要望に全てこたえられましたか」

このようになり（C1[2回目]）

○ 1回目の買い物活動を振り返り、Tシャツを上手く売れたかどうかを確認する。

・最初は、1つ1つ聞いていたけど、だんだん慣れてきたら、色・形・絵柄をいっきに聞いて、1発でお客の欲しいものが分かるようになった。

・何度か、「これは？」と尋ねたら思い切り No ! と答えられて少し焦った。でも、慣れてきたらだんだんできるようになった。

・確かにTシャツは、きちんと売れたけど、お客さんの要望には全部答えられなかった気がする。

- ・うん。スティーブ先生は、他の服はないかなんて聞いてたし。
 - ・茂木先生は、MとかSとか言って、ちょっと混乱したような感じだった。
- ※ のような問いをもち、学級全体で共有が図れた時、次の働き掛けをする。

このように働き掛けると【働き掛け2（2回目）】

中心となる英語表現の日本語訳に着目させ、既有の英語（表現）及びその日本語訳を提示する。

- 発問1「他の服を売ったり、サイズを英語で言うには、どのように言ったらいいのだろう。まず、他の服を売る場合を考えてみよう。服は、事前にTシャツと同じように用意するとして、そうするとTシャツ専門店でなくなるから、どんな服をお客さんが望んでいるか分からないよね。その場合、何て聞いたらいいいだろう」
- ※中心となる英語表現（What(noun)?）以外の英語（語彙・表現）について、教師が教える。
- 説明1「ちなみに、今までの英語は、こんな会話でしたね。どこか似ているところはありますか」
- 指示1「みんなでどんな英語になるのか考えてみよう」
- ※Tシャツを売るのに必要な英語表現とその日本語訳を提示する。
- ※補助1 サイズの聞き方が出ない場合は、教師から「じゃあ、サイズの聞き方はどうですか」と質問する。

このようになり（C2[2回目]）

- 使いたい英語を日本語で考える。
 - ・どんな服をお探しですか。かな。そうすると、いらっしやいませだけじゃだめだよ。
 - ・どんな服…。う～ん。
 - 比較するすべを用いて、日本語同士（既有の日本語訳と中心となる英語表現の日本語訳）を比べ、共通点や相違点に気付く。
 - ・みんな「どんな○○」ってなるから、○○だけ変えればいいんだよ。
 - ・でも、「どんな○○」にしても、その後が難しいかな。
 - ・そうしたら、「最初のどんな服をお探しですか」も「どんな○○」になるのかな。ちょっと失礼な気もするけど…。

共通点と相違点と既有の英語表現とを関係付けるすべを用いて、中心となる英語表現（Whatの後にカテゴリーを表す言葉を加えるとより詳しい「何」が聞けるようになる）を見いだす。

 - ・What(noun)?だから、(noun)の所に、必要な(noun)を入れればいい。だから、sizeとかclothesを入れる。
 - ・だったら、What(noun)は、色々詳しく聞く時には、便利だよ。
- ※ のようなWhat(noun)?使い方を学級全体で共通した時、次の働き掛けをする。

本時はここまで

このように働き掛けると【働き掛け3（2回目）】

各班で服屋を開店させ、接客をさせる。

- 指示1「Hello, everyone! How are you? …」
- ※初めにあいさつの会話を交わす。
- 説明1「前回までに、服屋の店員になってお客の要望に応えるためにはどんな英語が必要かを学んできましたね。今日は、実際にその英語を使って、お客の要望に応えられるかをやってみましょう。ルールは、前時に示した通りです。できそうですか」
- ※ルールは、事前に説明しておく。
- ※お客になる側は、事前に自分の買いたいTシャツを決めておく（記述）。
- ※はじめの班は、お店の準備は、開始前に既に済ませておく。
- ※準備の自信がなさそうであれば、準備の時間をとる。
- 指示2「それでは、1回目の買い物タイムを始めてください」
- ※2回目以降は、子どもの実態を見ながら時間を決めて、交代させる。
- ※実際の買い物タイムでは、HRT・ALT共に、欲しいTシャツは、手に入れるも、他の要求（サイズや他の服はないのかなど）をする。

このようになり（C3[2回目]）

- ルールや店の準備などをする。
 - ・OK!先生大丈夫だよ。
 - ・ちょっとまって、もう一度だけ、確認をさせて。
 - ・役割分担確認!
 - ・バッチリ! OKです。

- **関係付けるすべ**を用いて、見いだした中心的な英語表現(What の後にカテゴリーを表す言葉を加えるとより詳しい「何」が聞けるようになる)と実際の場面や状況をつなぎ、お客の要望に応えようとする。

S = 店員 C = お客

S: Hello! May I help you?

C: Hello!

S: What clothes do you look for?

C: Oh, pants please.

S: Ok. what color do you like?

C: Ah, I like pink.

S: OK. Here you are.

C: Oh, no.

S: Oh sorry. What shape do you like?

C: I like circle.

S: Ah, I see. Here you are.

C: Oh, no, no. I don't like dog.

S: Wow Sorry. What animal do you like?

C: I like a cat.

S: What size?

C: Ah, 'S', please.

S: OK. Here you are.

C: Thank you!

S: You are welcome.

C: Ah... Do you have pants?

S: See you again!

C: See you.

※ つなぐ力: ~~~~~のように**関係付けるすべ**を用いて、見いだした英語(What(noun)?)を使ってコミュニケーションをしてみることで、その英語で課題解決できるかどうかを判断している。

※ ~~~~~のような場面や状況に応じて、What(noun)?)を使い、お客の要望に応えることができた時、次の働き掛けをする。

このように働き掛けると【**「学びをつなぐ力」を自覚させるための働き掛け**】

振り返りシートでお客の要望に応えられるようになった要因を問う。

- 発問「今回の服屋の店員の活動を通して、どのような英語を使ったら、お客のどんな要望に応えられるようになったと思いますか」

※ 振り返りシートを配付する。

このようになり (C n)

- 中心となる英語表現(What(noun)?)を使って、お客の要望に応えられたことを自覚し、**目指す子ども (Cn)**になる。

・ what?の後に、サイズや服の種類についての英語を使うと、お客(相手)の望んでいる服を売ることができる。

・ What(noun)?は、色々詳しいことを聞くことができ、お客の要望をたくさん知ることができる。

※ 「学びをつなぐ力」を自覚させるための働き掛けを受けて、想定した「学びをつなぐ力」を自覚しているかどうかを、感想シートの記述から検証する。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な学習内容」を創り出すことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、関係付けるすべを用いて、~~~~~のような What(noun)?)を使って、課題を解決することができ、かつ実際に売った商品がお客が事前に記述した望んでいるものと合致しているかどうかで検証する。
- ② 働き掛け3を受けて、~~~~~のように**関係付けるすべ**を用いて、見いだした英語(What(noun)?)を使ってコミュニケーションをしてみることで、その英語で課題解決できるかどうかを判断しているかどうか子どもの姿で検証する。
- ③ 「学びをつなぐ力」を自覚させるための働き掛けを受けて、~~~~~のように想定した「学びをつなぐ力」で~~~~~のような課題解決できたと自覚しているかどうかを、感想シートの記述から検証する。